

仮 訳

保険監督者国際機構

グローバルにシステム上重要な保険会社：当初評価方法

2013年7月18日

IAIS について

保険監督者国際機構（IAIS）は、約 140 か国の 200 を超える管轄区域からの保険監督者および規制者である任意の会員からなる組織である。IAIS の使命は、保険契約者の利益と保護のために、公正、安全かつ安定した保険市場を発展させかつ維持すべく、効果的でグローバルに整合的な保険市場の監督を促すこと、およびグローバルな金融安定に貢献することである。

IAIS は 1994 年に設立され、保険セクターの監督のための原則、基準および他の支援資料の策定、およびそれらの実施を支援する責任を有する基準設定主体である。また、IAIS はメンバーに対して、保険監督および保険市場に関するメンバーの経験ならびに見解を共有するための議論の場を提供する。メンバーの積極的な参加に加え、IAIS は、国際機関、専門家団体、保険会社および再保険会社、ならびにコンサルタントおよび他の専門家を代表するオブザーバーから提供される、IAIS の選択された活動への助言により利益を得ている。

IAIS は、他の国際的な金融政策立案者および監督者または規制者の協会と自身の取組みを調整しており、また、世界的な金融システムの形成を支援している。特に、IAIS は、金融安定理事会（FSB）のメンバーであり、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）、証券監督者国際機構（IOSCO）と共に、ジョイントフォーラムの創設メンバーかつ共同母体であり、国際会計基準審議会（IASB）の基準諮問会議のメンバーであり、保険へのアクセスに関するイニシアティブ（A2ii）のパートナーである。また、その結集された専門知識が認められ、IAIS は、G20 のリーダーおよび他の国際的な基準設定主体から、保険の論点のみならずグローバルな金融セクターの規制および監督に関する論点について、常に助言を求められている。

保険監督者国際機構

c/o 国際決済銀行

CH-4002 Basel

Switzerland

Tel: +41 61 225 7300

Fax: +41 61 280 9151

www.iaisweb.org

本出版物の著作権は、生命保険協会（以下、当会）が有しており、保険監督者国際機構（以下、IAIS）の公式な翻訳文書ではない。

無断転載禁止。出典表示を条件に、概要の引用について、複製または翻訳を許可する。なお、本仮訳を利用することにより発生するいかなる損害やトラブル等に関して、当会は一切の責任を負わないものとする。

原文は、IAIS のウェブサイト(www.iaisweb.org)上で入手可能である。

カバー・ノート

世界的な金融危機は、金融機関の相互関連性のある性質、ならびに、当該金融機関の深刻な経営困難または破綻による、および経営困難であったまたは破綻すると予想された金融機関に対する公共セクターの介入に伴う、広範な財務および経済的費用を際立たせた。当該金融危機は、システム上重要な会社を特定するため、および、当該影響を弱め、公的セクターの介入およびそのような会社の経営困難や破綻に付随するモラルハザードを軽減するため、公的機関が迅速かつ積極的に行動する必要性についても強調した。

こうした取り組みの一環として、保険監督者国際機構（IAIS）は、他の基準設定主体、中央銀行および金融セクターの監督者と共に、金融安定理事会（FSB）およびG20の下で、グローバルにシステム上重要な金融機関（G-SIFIs¹）を特定するためのグローバルなイニシアティブに参加している。IAISの分析の焦点は、潜在的にグローバルにシステム上重要な保険会社（G-SIIs）に関するものである。

IAISは、その経営困難または無秩序な破綻が、その規模、複雑性および相互関連性を理由に、グローバルな金融システムおよび経済活動に甚大な混乱をもたらすような、保険が支配的な金融コングロマリットを特定するための評価方法を開発した。

関係者は、IAISの報告書「保険および金融安定化」²を含む、IAIS、FSBおよびバーゼル銀行監督委員会（BCBS）のウェブサイト入手可能な、関係する背景ペーパーについて、参照することを望むかもしれない。他の主要なペーパーには、以下が含まれる：

- 「金融機関、市場および商品のシステム上の重要性の評価に関する指針」と題する、G20の財務大臣および中央銀行総裁に提出された、IMF/FSB/国際決済銀行（BIS）スタッフの報告書（2009年10月）³
- 「システム上重要な金融機関（SIFIs）がもたらすモラルハザードの抑制」に関するFSBの勧告（2010年10月）⁴
- BCBSの、グローバルにシステム上重要な銀行（G-SIBs）の特定に関する枠組み、およびG-SIBsの追加の損失吸収力に関する要件（2011年11月）⁵
- G-SIBsの第一集団（first cohort）の決定（2011年11月）⁶

¹ G-SIFIsは、「その規模、市場の重要性、およびグローバルな相互関連性のため、その経営困難または破綻が、グローバルな金融システムに著しい混乱を招き、また様々な国にわたり経済的悪影響をもたらす金融機関」とであるとFSBによって定義されている。G-SIIsは、G-SIFIsの中の分類の1つである。

² IAIS（2011年）<http://www.iaisweb.org/Other-papers-and-reports-46>を参照。

³ <http://www.imf.org/external/np/g20/pdf/100109.pdf> 参照。

⁴ http://www.financialstabilityboard.org/publications/r_101111a.pdf 参照。

⁵ <http://www.bis.org/publ/bcbs207.pdf> 参照。

⁶ http://www.financialstabilityboard.org/publications/r_111104bb.pdf 参照。

略語の用語集

ART	: 代替的リスク移転
BCBS	: バーゼル銀行監督委員会 (バーゼル委員会)
BIS	: 国際決済銀行
CDO	: 債務担保証券
CDS	: クレジット・デフォルト・スワップ
FSB	: 金融安定理事会
G-SIBs	: グローバルにシステム上重要な銀行
G-SIFIs	: グローバルにシステム上重要な金融機関
G-SIIs	: グローバルにシステム上重要な保険会社
G20	: 主要 20 か国のグループ
IAIS	: 保険監督者国際機構
ICPs	: IAIS の保険コア・プリンシプル
IFS	: IAIS の「保険および金融安定化」ペーパー
IGT	: グループ内の取引
ILS	: 保険リンク証券
NTNI	: 非伝統的な保険および非保険業務
SIFIs	: システム上重要な金融機関

目次

カバー・ノート

略語の用語集

I. はじめに

A. 保険および金融安定化の問題に関するIAISの立場

II. G-SIIsのシステム上の重要性に関する評価方法

A. データの問題

(A)データ収集の範囲

(B)データの質

B. 体系的評価プロセス

(A)指標ベースの評価アプローチ

(B)IFS評価アプローチ

(C)監督上の判断および検証の組入れ

(D)指定プロセス

III. 今後の手順

Annex1－IFS評価アプローチ

1. はじめに

- (1) 保険監督者国際機構（IAIS）は、他の基準設定主体、中央銀行および金融セクターの監督者と共に、金融安定理事会（FSB）およびG20の下で、グローバルにシステム上重要な金融機関（G-SIFIs⁷）を特定するためのグローバルなイニシアティブに参加している。IAISの分析の焦点は、潜在的にグローバルにシステム上重要な保険会社（G-SIIs）に関するものである。そのため、IAISは、保険会社の経営困難または無秩序な破綻が、その保険会社の規模、複雑性および相互関連性を理由に、グローバルな金融システムおよび経済活動に対して重大な混乱をもたらすようなあらゆる保険会社を特定するために、本当初評価方法を開発した。あらゆるそのような保険会社は、グローバルなベースでシステム上重要であるとみなされるだろう。
- (2) 2010年11月のソウル・サミットにおいて、G20のリーダーは、システム上重要な金融機関がもたらすモラルハザードの抑制に関する、FSBの枠組みを承認した。本枠組みは、以下を行うために同時に行うべき、いくつかの方針を提言している：
- SIFIsのより強化されたおよび協調的な監督を適用する。
 - 金融システムの安定性を損なわず、かつ納税者に損失リスクをさらすことなく、秩序ある方法でSIFIsの破綻処理を行う、当局の能力を向上させる。
 - SIFIsがグローバルな金融システムにもたらすより規模の大きいリスクを反映するため、SIFIsにより高い損失吸収力を要求する。
 - 中核となる金融インフラを強化する。および
 - 各国当局によって決定される、他の補足的な健全性要件およびその他の要件を規定する。
- (3) 当初、G-SIFI関連の作業は、より差し迫った問題である、銀行セクターに重点を置かれた。バーゼル銀行監督委員会（BCBS）は、グローバルにシステム上重要な銀行（G-SIBs）の特定に関する枠組みを開発した。本枠組みは、追加の損失吸収力を含め、2011年11月に公表されたルール⁸に含まれた。29のG-SIBsの最初のリストは、同時

⁷ G-SIFIsは、「その規模、市場の重要性、およびグローバルな相互関連性のため、その経営困難または破綻が、グローバルな金融システムに著しい混乱を招き、また様々な国にわたり経済的悪影響をもたらす金融機関」とであるとFSBによって定義されている。G-SIIsは、G-SIFIsの中の分類の1つである。

⁸ <http://www.bis.org/publ/bcbs207.pdf> 参照。当該ルールには、以下のコメントが含まれている：「2007年に始まった最近の金融危機の間、多くのグローバルな大手金融機関の破綻または経営悪化は、金融システムに衝撃を与え、それと同様に実体経済を損ねた。監督者および他の関係当局は、個別の会社に影響を及ぼす問題が広まり、金融安定化を損うことを防ぐための、限られた選択肢を有していた。結果として、当該危機の間に金融安定化を回復するための公共セクターの介入が、必要となり、大規模に行われた。これらの介入の財務および経済的費用、ならびにそれに伴うモラルハザードの増加の両方は、グローバルにシステム上重要な金融機関（G-SIFIs）の破綻から生じる問題の可能性および重大性を軽減するための、追加的な措置が講じられる必要があることを意味している。…自身のビジネスモデルが、一般的に、取引および資本市場に関する活動に対してより一層重点を置いてきており、資本の枠組みの強化されたリスクの範囲によって最も影響を受ける場合、多くの政策措置は、グローバルにシステム上重要な銀行（G-SIBs）に対してとりわけ影響を及ぼす。これらの政策措置は、重要であるが、G-SIBsによってもたらされる負の外部性に対応するのには

に FSB によって開示された⁹。BCBS は、以下のようにコメントした：「G-SIBs によってもたらされる外部性に対する唯一の解決策は存在しない。したがって、公式なコミュニティは、多面的アプローチを通して当該問題に対応している。当該政策の広範な目的は、自身のゴーイングコンサーンの損失吸収力を増大させることによって、G-SIBs の破綻の可能性を低減すること、ならびにグローバルな回復および破綻処理の枠組みを改善することによって、G-SIBs の破綻の範囲または影響を軽減することである。」

- (4) 保険会社を対象とするために G-SIFIs の枠組みを拡大することは、FSB の 2010 年 10 月の報告書において、予示されていた¹⁰。2011 年 11 月にカンヌにおいて、G20 のリーダーは、IAIS が、G-SIFIs を特定するための評価方法を完成することへの期待を改めて表明した¹¹。
- (5) IAIS は、安定的な金融市場の重要性を考慮に入れると共に、規約で規定されている通り、その任務の一部が世界的な金融安定化に貢献することであることを認識し、集中的にその問題を検討してきた。
- (6) 本文書は、IAIS の作業の結果を示し、システム上の重要な保険会社を評価するための IAIS の評価方法について説明する。

A. 保険および金融安定化の問題に関する IAIS の立場

- (7) 当該方法を開発する上で、伝統的な保険のビジネスモデルが、銀行とは異なるという事実、および、とりわけ伝統的な事業が、決済システム、信用仲介および投資銀行サービスを含まないという事実が考慮された。2011 年 11 月に、IAIS は、保険セクターと金融安定化の関係についての IAIS の見解を説明する、「保険および金融安定化」と

十分ではなく、G-SIBs のより広範な波及リスクから当該システムを保護するのに十分適してはいない。G-SIBs の追加的な政策措置を採択する根拠は、現行の規制政策が完全には取扱っていない、システム上重要な銀行によって生じる国境を越えた負の外部性に基づいている。」

⁹ http://www.financialstabilityboard.org/publications/r_111104bb.pdf (FSB (2011 年)) 参照。「最初のリストは、2009 年末時点のデータを用いた、BCBS 文書「グローバルにシステム上重要な銀行：評価手法と追加の損失吸収力の要件」に規定されている方法に基づいている。G-SIFIs のリストは、毎年更新され、各年の 11 月に公表される予定である。したがって、当該リストは、固定的ではない—毎年新たな追加や削除の可能性がある、G-SIFIs の数は変動しうる。BCBS の方法は、銀行システムにおける変更およびシステム上の重要性を測定する上での取組みを捕捉するため、3 年ごとにレビューされる。現在のリストには、グローバルにシステム上重要な銀行グループが含まれており、今後のリストには、銀行グループではない G-SIFIs も含まれるかもしれない。」

¹⁰ http://www.financialstabilityboard.org/publications/r_101111a.pdf (FSB (2010 年)) 参照。「経験の蓄積につれて、FSB は、銀行グループの一部を構成しない金融市場インフラ、保険会社および銀行以外の金融機関を含む、より広範な SIFIs のグループを対象とするために、この枠組みを拡張する方法をレビューする。」

¹¹ http://www.financialstabilityboard.org/publications/r_111104bb.pdf (FSB (2011 年)) 「システム上重要な金融機関に対処するための政策措置」参照。IAIS が、「グループ全体の監督と規制および監督アプローチのグローバルな取組を発展させるために、国際的に活動する保険グループの監督のための共通枠組みを 2013 年までに策定する作業を進めていく」ことについても求められている。

題した報告書を公表した。当文書は、保険負債に適用されるより長期の時間枠の重要性¹²、および被保険利益の概念を含む保険リスクのプーリングに頼る保険技法の重要性を強調する、2010年6月の見解ステートメントの公表に続くものであった¹³。セクションIの残りは、当該方法の開発に関係する、これらのペーパーの最も重要な結論を要約する。

- (8) 保険は、基本的に、多くの特異なリスクの合算が、最終的には正規分布曲線をもたらすことになることをいう、大数の法則に基づいている。したがって、保険のビジネスモデルは、より分散されたポートフォリオを構築および維持するために、保険契約者の理想的には多くの無相関のリスクの前提に基づいていると言うことが正当である。実際、これは、ポートフォリオの増大に伴い、(ポートフォリオ全体に関して) 予期せぬ結果が起こる機会がほとんどなく、非常に莫大な損失が生じる可能性もより低いことを意味する。リスクを引き受ければ引受けるほど、保険会社のリスク・プロファイルは、リスクが低くなる。つまり、保険会社が大きくなればなるほど、その事業はより分散化(引き受ける事業種目が増加)される。
- (9) 保険事業は、リスクを引き受け、保険金は、以下に関係する特異な保険金支払事由の発生時に、支払時期となる：
- 死亡率
 - 罹患率
 - 財産、および
 - 賠償リスク
- (10) 保険のビジネスモデルは、以下のような、一般的に銀行には見られないいくつかの固有の特徴も有する：
- 保険技法が、保険リスクのプールおよび大数の法則などの確率論に基づく。
 - 保険会社が、圧倒的に負債主導型の投資アプローチを実施する。
 - 保険金支払いの性質が、長期間にわたって発生する可能性がある現金支出をもたらす。および
 - 高い代替可能性。

¹² <http://www.iaisweb.org/Other-papers-and-reports-46> (IAIS (2010年)) 参照。「これにも関わらず、保険会社は、財政的に困難となることがあり、競争市場において、時々財政難および支払不能が発生するかもしれない。保険会社の財政難は、通常、より長期間にわたって展開する。つまり、当該保険会社の資産は、当該契約の保険金または給付金が支払われる必要が生じるまで、現金化される必要が無く、これは、今後数か月、あるいは数年は起こらないだろう。したがって、規制者は、通常、支払不能から生じる保険契約者への潜在的な損失を軽減するために、介入する期間を有する。」

¹³ IAIS (2011年) 参照。「被保険利益は、保険契約発行の対象となる人または物に存在する利益、つまり被保険者の生存の利益または保険対象物の保全の利益として定義できる。…金融デリバティブは規制目的上、保険とはみなされない。」

- (11) 一般的に、保険引受リスクは、経済的な事業サイクルおよび金融市場リスクと相関せず、保険事象の規模は、金融市場の損失に影響されない。保険負債の特性から、また一般に保険事故がない限り保険契約者への支払が発生しないことから、伝統的業務を行う保険会社が流動性を損なうほどの現金支出が突如求められることは少ない。
- (12) しかしながら、保険会社は、信用リスク、オペレーショナルリスク、市場リスク、および金利や為替リスクを含む、他の金融機関が直面するリスクにもさらされる。それにも関わらず、上述した保険のビジネスモデルの固有の特徴のおかげで、ほとんどの保険会社が、他の金融機関よりも 2008 年から 2009 年の金融危機に耐えることができた。確かに保険業界は、当該金融危機の影響を受けたものの、伝統的な保険業務を行う保険会社は、概して当該影響を吸収することができ、システムリスクの視点からは、より広範な金融システムに対する影響を示さなかった。
- (13) 対照的に、非伝統的 (NT) 業務または非保険 (NI) 業務を行う保険グループおよびコングロマリットは、金融市場の進展により影響を受けやすく、したがって、伝統的な保険会社よりも、システムリスクを増幅したりその原因になったりする可能性が高い。非伝統的業務および非保険業務の例には、金融保証保険、クレジット・デフォルト・スワップ (CDS) のような資本市場業務、ヘッジ目的でない取引、デリバティブ取引、または投資益の向上を狙った資産のレバレッジが含まれる。加えて、絶え間ない市場の進化の過程で、伝統的保険と銀行型 (または投資銀行型) 業務の区別をあいまいにするような商品や業務が生まれた。
- (14) NTNI 業務についてのより具体的な議論および定義については、G-SII 政策措置ペーパーのセクション 3.2 をご参照頂きたい。
- (15) 要するに、保険市場の長い経験もグローバルな金融危機から生じた情報のどちらも、伝統的な保険が、金融システムまたは実体経済において、システムリスクを発生させた、または増幅させたという根拠は何ら提供していない。システム上の重要性の可能性は、非伝統的業務または非保険業務においてのみ生じると考えられている。
- (16) しかしながら、保険会社および保険グループのシステム上の重要性についての経験的な評価は、時間とともに変化しうる。過去にシステムリスクがなかったからといって将来も発生しないとは限らない。これが、IAIS が、保険のビジネスモデルの革新および変化のペースをレビューし、個別の保険会社がシステム的であると分類される可能性を評価することを約束する理由である。

II. G-SIBsのシステム上の重要性に関する評価方法

- (17) IAISはG-SIBsのシステム上の重要性を評価するための当初評価方法を開発し、選ばれた保険会社から集めた2011年末のデータを用いて、2012年に当該方法を適用した。当該当初評価方法には3つの段階が含まれる。つまり、データの収集¹⁴、体系的評価、ならびに監督上の判断および検証プロセスである。本セクションでは、これら3つの段階がIAISの評価方法にどのように組み込まれたかを記載する。
- (18) 本セクションでは、まず、データ収集の範囲およびIAISが直面した課題について記載する。これに続いて、当初評価アプローチについて説明する。最後に、監督上の判断および検証プロセスの当初手順を説明する。
- (19) 当初評価アプローチは指標ベースであり、また、G-SIBsについてBCBSが開発したアプローチに対して、いくつかの利点¹⁵および類似点がある。例えば、指標の分類では、かなりの数の重複がある。しかしながら、保険会社は、その構造および事業において、ならびにその結果、グローバルな金融システムに保険会社がもたらすリスクの性質および程度において、銀行とは大きく異なる。そのため、G-SIBs特定のために選ばれた具体的な指標は、可能性のある負の外部性、および、それゆえ、金融システムの安定化のための保険会社の重要性といった様々な原動力を反映する。
- (20) BCBSによって示されたように、全てのグローバルな金融機関を対象とした、システム上の重要性を完璧に測定する評価アプローチは存在しない。そのため、G-SIBsを特定する際のBCBSのアプローチと同様に、IAISの方法もまた、指標アプローチから生じる結果の監督上の判断および検証の重要性を認識している。IAISの監督上の判断および検証プロセスには、本プロセスのための候補の選定を含む、追加的な定性的および定量的評価が含まれる。
- (21) 追加的な定量的評価は、「保険および金融安定化」に記載された概念と構造的に一致された、事業セグメント固有のリスクに重点を置いた評価アプローチの形式をとる。このアプローチは「IFS評価アプローチ」と称される。IFS評価アプローチは、保険会社ならびに保険中心のグループおよびコングロマリットの事業ポートフォリオを、伝統的保険業務、準伝統的保険業務および非伝統的保険業務、ならびに非保険金融活動および非保険事業活動にセグメント化することを中心としており、それは、前述の業

¹⁴ 国際決済銀行(BIS)は、機密データの収集のための保護された送信チャネルを提供することで、IAISと協力した。

¹⁵ パーゼル委員会が示したように、「複数の指標ベースの測定アプローチの利点は、システム上重要な多くの次元を含むことであり、比較的シンプルで、かつ、少ない指標一式または市場変数にのみ依存する現在利用可能なモデルベースの測定アプローチおよび方法よりもより安定していることである。」 <http://www.bis.org/pub/bcb207.pdf> 参照。

務のシステム上の重要性が、(伝統的保険のような) あまり重要でないものから (非保険金融業務、例えば銀行業務のような) 潜在的に重大なものまで多岐にわたるためである。

A. データの問題

(A) データ収集の範囲

(22) 保険会社のビジネスモデルおよび保険会社が活動する金融市場の動的な性質により、保険会社のシステム上の重要性を評価するためには、直近の、一貫性があり、かつ良質なデータが必要であることを意味する。多くのデータ項目が、公に入手できないか、または公に一貫して入手できないかのどちらかであるため、IAIS は選ばれたグローバルな保険グループから関連するデータ項目を収集した。IAIS は、保険会社に対して、全ての保険事業体および非保険事業体を含め、会計目的で連結されたグループレベルのデータに基づいて、自身のそれぞれの監督者に 2011 年末時点のデータを報告するよう依頼した。一部のデータ項目は、全ての保険会社にとって、連結ベースで提供することは困難であり、そのかわり、グループ内の主要な事業体を反映させた合算データを報告することも可能であった。

(23) データは、以下の規準に従って選ばれた 14 の管轄区域の 50 の保険会社に対して、それぞれの国の監督者を通して依頼されおよび入手された：

- 総資産が 60 十億米ドル以上で、かつ、総保険料に対する本店所在管轄区域外からの保険料の割合が 5%以上であった保険グループ。
- 総資産が 200 十億米ドル以上で、かつ、総保険料に対する本店所在管轄区域外からの保険料の割合が 0%以上 5%未満であった保険グループ。
- 最後に、金融保証保険会社のような少数の保険会社も監督上の判断により対象に加えられた。

(B) データの質

(24) BIS の統計がグローバルなベースで銀行業務の様々な分野をカバーする銀行セクターとは異なり、IAIS は保険セクターに関するグローバルなベースでのデータ収集の前例をほとんど持っていなかった。そのような前例の 1 つは、IAIS が約 10 年間収集してきた、「IAIS グローバルな再保険市場についての報告書¹⁶」のために収集されたデータである。しかしながら、G-SII 評価方法をテストするために収集されたデータの性質、範囲および規模は、IAIS にとって極めて新しい仕事であった。IAIS は、一貫性があり高品質のデータを収集するために、以下を含む、いくつかの難題に直面した：

¹⁶ <http://iaisweb.org/Global-Reinsurance-Market-Report-GRMR-538> 参照。2012 年、IAIS は、国際的な保険市場における主要な発展と共に、元受保険会社および再保険会社の実績について記載している「グローバルな保険市場についての報告書」に、本報告書を統合させた。

- 保険会社の管理情報システムは、IAIS が依頼した全ての連結データ項目を必ずしも提供しない。¹⁷
- 一部の資産、デリバティブ、保険契約および保険契約準備金の評価における差異を含め、会計処理に差異がある。
- 一部の保険事業の用語の解釈で、管轄区域間または地域間に差異がある。
- 一部のデータ項目の定義は、より具体化されうる。¹⁸

(25) IAIS は各国の監督者と協力して、可能な場合は情報を公的な情報源と比較して、および適切であれば、関連する監督者とさらに相談することで、データの質および一貫性を向上させた。調整されたデータは、評価方法案を開発するのに満足できるものとみなされた。

(26) 重大であるとみなされる場合、金融活動に重点を置くために、連結されたグループ全体の測定基準 (metrics) から非金融子会社を選択的に除くことによって、関連するデータ項目に調整を行った。

B. 体系的評価プロセス

(27) グローバルなシステム上の重要性は、破綻の可能性の観点からではなく、保険会社の経営困難または破綻がグローバルな金融システムおよびさらに広範な経済に及ぼす影響の観点から主に測定される必要がある。これは、BCBS のアプローチと整合的である。

(A) 指標ベースの評価アプローチ

(28) 指標ベースの評価アプローチは、BCBS の G-SIB 方法に関連したものである。しかしながら、「保険および金融安定化」に記載された保険セクター固有の性質は、その選択、グループ化および特定の指標に置かれるウェイトに影響を与えた。

(29) 選択された指標は、5つの分類にグループ分けされる：

- 規模：金融システムが機能するための1つの構成要素 (component) の重要性は、一般的に、当該構成要素が提供する金融サービスの分量とともに増加する。しかしながら、保険については、規模はリスクの効果的なプーリングおよび分散化のための必須条件であることが認識されるべきである。

¹⁷ 銀行セクターについて BIS および BCBS が果たす役割とは異なり、IAIS には、保険セクターについての連結された規制上のデータ収集の役割は存在しない。

¹⁸ 上述の理由のため、十分に明確でかつ管轄区域/地域で比較可能な定義を設けることは困難である。

- グローバルな活動：当該方法は、その破綻がグローバルな規模で大きな負の外部性をもたらす、金融システムにおける構成要素を特定することを目的としている。
- 相互連関性：システムリスクは、金融システムの構成要素間の直接的および間接的内部連鎖を通じて生じる可能性があり、そのため、個々の破綻または経営困難が金融システムに波及し、サービスの総額の削減につながることになる。
- 非伝統的業務および非保険業務：「保険および金融安定化」に記載されたように、非伝統的保険業務および非保険金融業務は、保険会社のシステム上の重要性の潜在的な原動力であり、それゆえ、破綻時に多大な影響を及ぼす。
- 代替可能性：1つの構成要素のシステム上の重要性は、システムの当該構成要素が、破綻の際に同等または類似のサービスを提供することが困難になる場合に増加する。

(30) IAIS は、各保険会社のシステム上の重要性の程度および特性を捕捉するのに役立つ指標について、複数の次元から 5 つのそれぞれの分類において特定した。以下の表は、当初評価方法のために選出された 20 の指標、およびそれらが選出された理由を記載している。破綻により受ける影響を捕捉するために、指標はほとんどが絶対値となっているが、一部のケースでは、破綻による相対的な影響を捕捉するために比率も使用され、その典型的な例として、ある業務の規模を関係する合算値と比較することがある。

表1. IAISの指標ベースの評価アプローチについての5つの分類

分類：規模		
指標	内容 [分析チームによる2011年のデータに対する調整あり]	根拠
総資産	バランスシート上の資産規模の合計	直接的な規模の指標
総収益	営業保険料、投資収益、実現損益、フィーおよびコミッション、ならびに他の収益	様々な角度から、保険会社の金融サービスの範囲または規模を示す。 (資産の規模だけに注目すると、損害保険会社の活動を過小評価する可能性がある。)

分類：グローバルな活動		
指標	内容 [分析チームによる2011年のデータに対する調整あり]	根拠
本店所在国外からの収益	本店所在国外の管轄区域において認識された総収益の合計	収益の観点から、グローバルな活動の範囲を示す。
国の数	あるグループが、本店所在国外で、支店および/または子会社の形態で事業運営している国の数	事業運営の観点から、グローバルな活動の範囲を示す。

分類：相互連関性		
指標	内容 [分析チームによる2011年のデータに対する調整あり]	根拠
内部での金融資産	金融機関への貸付および、他の金融機関が発行する証券（債券、コマーシャル・ペーパー、譲渡性預金および持分）保有の合計	資産の投げ売りを通して金融システムに影響する、保険会社の破綻または経営困難の可能性を示す。
内部での金融負債	金融機関からの借入および他の金融機関が保有する証券（債券、コマーシャル・ペーパー、譲渡性預金）発行の合計	保険会社の破綻または経営困難が、保険会社に対するエクスポージャーを有する者に影響する程度を示す。
再保険	再保険引受事業のための保険契約準備金総額	再保険取引を通じた、保険セクターとの相互連関性の程度を示す。
デリバティブ	未決済デリバティブの総想定金額 [2011年のデータでは、ある種類の組込デリバティブを含む]	デリバティブ取引を通じた、金融システムとの相互連関性の程度を示す。
大きなエクスポージャー (本指標は、今後、データ分析より前に見直しが行われる予定である。)	以下の組合せ： (a)上位19のカウンターパーティ（デリバティブ取引のカウンターパーティを含むが、国内のソブリン債および分離勘定資産を除く）への資産エクスポージャーの合計、および (b)総資産に占める、上位19のカウンターパーティへの資産エクスポージャーの合計の比率（分離勘定資産を除く） (c)市場規模に占める国内のソブリンの比率	主要なカウンターパーティに対する資産エクスポージャーへの集中に焦点を当てて相互連関性の程度を示す。 比率の形式で、この指標は、資産に過度な集中がある保険会社を示すことができる。
回転率	以下の2つの比率： (a)総資産に占める、投資資産*の購入総額および投資資産の売却総額の比率、ならびに	この指標は、伝統的な保険事業中心の保険会社よりも、資本市場でより活発な保険会社を示すことがで

	(b)総負債に占める、積立負債の総販売（発行）額および積立負債の総償還額の比率 *キャッシュ・フロー計算書に従う	きる。
レベル3資産	以下の組合せ： (a)レベル3の資産総額、ならびに (b)レベル1,2および3の資産 ¹⁹ 総額に占める、レベル3の資産総額の比率 [2011年のデータについて監督上の判断によりこの適用範囲に追加された、保険会社の比率は除外している]	金融市場の不況時に保険会社が非流動性資産の投売りを行う潜在的規模を示す。 比率の形式で、伝統的な保険事業中心の保険会社よりも、複雑な資産の市場でより活発な保険会社を示すことができる。

分類：非伝統的保険および非保険（NTNI）業務		
指標	内容 [分析チームによる2011年のデータに対する調整あり]	根拠
非保険契約者負債および金融活動からの非保険収益*	以下の組合せ： (a)バランスシート上の負債総額から全ての保険契約者負債を控除* (b)バランスシート上の負債総額に占める(a)の比率 (c)非保険業務の金融活動からの収益総額、および (d)収益総額に占める(c)の比率 *保険契約を履行するために保有する全ての保険契約準備金	バランスシートおよび収益数値の双方を用いることにより、保険会社がNTNI業務を行う範囲を示す。 保険契約者負債は、伝統的な保険業務の代用である。「負債総額から保険契約者負債を控除」はNTNI業務を示す。 比率の形式で、伝統的な保険会社よりもNTNI業務を行う保険会社を示すことができる。

19 レベル1の資産は、活発な市場での同一の資産に対する未調整の相場価格に基づく。レベル2の資産は、活発でない市場の相場価格に基づく、または、その価値がモデルに基づくが、それらのモデルへのインプットが、実質的にその資産の全期間に対して、直接的または間接的のいずれかで観察可能なものである。レベル3の資産は、価格に基づくか、全体的な公正価値測定に対して観察不能であるが重要なインプットを必要とする、評価技法に基づく。

デリバティブ取引	CDS プロテクションの売却の総想定金額	<p>保険会社を金融システムの他の分野に結び付けるCDS プロテクションの売却規模を示す。</p> <p>保険会社の経営困難または破綻がCDS プロテクションの買手の財務状態に影響を及ぼしうる。</p>
短期資金調達	<p>以下の組合せ：</p> <p>(a)以下の絶対値の合計</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短期借入 ● 発行済みのコマーシャル・ペーパー ● 発行済み譲渡性預金 ● レポ取引から受領した担保の総価額 ● 証券貸与から受領した担保の総価額、および <p>(b)総資産に占める上述の項目の合計額の比率</p>	<p>保険会社が満期変換に関与できる範囲を示す。</p> <p>多額の短期資金調達は、満期変換に関与する金融機関の特徴である。</p> <p>比率が、平均より高い短期資金調達を示すことで、この種の事業に進出し、また、それに伴って発生する資産の投売りの可能性を含めた、流動性リスクを引受ける保険会社にシグナルを発しうる。</p>
金融保証	<p>以下の合計額：</p> <p>(a)金融保証に付保された仕組み金融を含む、債券の総想定金額。売却済みのCDS プロテクションまたは保証証券は含まない。および</p> <p>(b)モーゲージ保証保険用の保有リスクで、発行済みの全てのモーゲージ保険契約でカバーされるモーゲージのデフォルト総額</p>	<p>金融保証およびモーゲージ保証商品は、保険会社を市場の他の部分に結び付け、また、景気循環と関連付けられる。</p> <p>保険会社の経営困難および破綻は、保証された当事者の財務状態に影響を及ぼしうる。</p>
変額保険商品に対する最低保証	<p>あらゆる保証のための追加の保険契約準備金を含む、変額年金および条件付き年金のための総保険契約準備金</p> <p>[2011年のデータでは、金融リスクに対して保護を提供する全ての生命保険・年金商品の勘定価</p>	<p>変額保険商品（元本保証付きの変額年金およびユニット・リンク商品を含む）には、多くの場合、保険契約者に対してある種の支払水準を保証するものを含み、保証額を支払おうとすることで保険会社の資</p>

	<p>値、および当該商品を裏付ける資産の勘定価額のうち、より金額の高い方が用いられた]</p>	<p>産売却を加速させ、また、すでに困難な市況を悪化させうる。</p> <p>また、保証に関するヘッジ戦略が、市場が広範なストレス状態にある場合には、市場に不利な影響を与える可能性がある。</p>
<p>グループ内コミットメント</p>	<p>以下の組合せ：</p> <p>(a)保険事業体または保険グループの最上位の持株会社によって、グループの非保険事業体のために与えられたグループ内コミットメント、ならびに非保険事業体によりグループ内のあらゆる他の事業体に与えられたグループ内コミットメント、ならびに</p> <p>(b)総資産に占める、保険事業体または保険グループの最上位の持株会社によって、グループの非保険事業体のために与えられたグループ内コミットメント、ならびに非保険事業体によりグループ内の他の事業体に与えられたグループ内コミットメントの比率</p> <p>[2011年のデータでは、株主持分の最大額が(a)に適用される]</p> <p>[2011年のデータについて監督上の判断によりこの適用範囲に追加された、保険会社の比率は除外している]</p>	<p>グループの非伝統的/非保険事業体に対して与えられた多額のグループ内支援は、過剰な NTNI 業務および/または NTNI 業務の自立の欠如を示す場合がある。</p> <p>また、多くのグループ内コミットメントは、複雑な会社構造および保険グループまたはコングロマリットの破綻処理のさらなる難しさを示しうる。</p> <p>この比率は、グループ内コミットメントの規模が、大規模（小規模）の保険会社の場合に、この問題を過大評価（過小評価）しうるという事実を説明するために使用される。</p>
<p>経済用語におけるデリバティブ取引（ヘッジおよび複製を除く）</p>	<p>「ヘッジの減少リスク」および「ヘッジの複製リスク」を除いたデリバティブの NTNI 関連部分および非 NTNI 関連部分の総想定金額</p> <p>[2011年のデータでは用いられていない]</p>	<p>投機的なデリバティブ取引の程度を示す。</p>
<p>保険負債の流動性の程度</p>	<p>要求すれば3か月以内に経済的なペナルティなしに解約可能な負債額に、20%未満の経済的なペナ</p>	<p>当該負債は、伝統的な保険負債よりもより「要求」されるため、「保険の取付け」</p>

	<p>ルティ（手数料や課税など）が課されるが解約可能な負債額の50%を加えたもの</p> <p>[2011年のデータでは、時間軸の閾値に左右されない金額が用いられた]</p>	が発生する可能性を示す。
--	---	--------------

分類：代替可能性		
指標	内容 [分析チームによる2011年のデータに対する調整あり]	根拠
具体的な事業種目の保険料	<p>以下の組合せ：</p> <p>(a)災害保険のための元受営業保険料および引受保険料</p> <p>(b)モーゲージ保証保険、金融保証、および輸出信用保険を含む、信用保証のための元受営業保険料および引受保険料</p> <p>(c)航空保険のための元受営業保険料および引受保険料、ならびに</p> <p>(d)船舶保険のための元受営業保険料および引受保険料</p>	<p>一部の具体的な保険市場における代替可能性の欠如の程度を示す。</p> <p>選ばれた3つの市場は、グローバルな状況において重大かつ非常に集中した市場とみなされている。</p>

(31) 「保険および金融安定化」で論じられたように、保険会社のシステム上の重要性を評価するための最も重要な2つの分類は、NTNIの分類、および相互関連性の分類である。非伝統的保険と非保険業務は、保険負債が通常管理されるより長期の時間枠が存在しないかもしれないために重要であり、また、相互関連性は、保険セクターと銀行セクター間に強い結び付きが存在しうるために重要である。したがって、これらの指標はより高いウエイトが置かれる。

(32) その結果、規模、グローバルな活動、および代替可能性の分類は、より低いウエイトが置かれる。このことは、より規模が大きい伝統的保険業務およびグローバルな広がりとともに生じうる、リスク分散の利点、ならびに保険引受能力の損失が市場への新規参入者に置き換えられる通常の速さと整合的である。また、規模およびグローバル

な活動の指標は、データ収集実施の範囲に含まれた、それらの保険会社の当初の選択でも使用された。さらに、分析では、他の分類の指標のうちのいくつかは、ある程度、規模に関連付けられることを示している。規模の分類をより低いウェイトに置くことで、規模が全体的な結果に不均衡な影響を与える余地を回避する。それ自体は（BCBSのアプローチにおけるように）別途の分類ではないものの、複雑性は他の分類（例えばグループ内コミットメント）の中で、一部の指標により捕捉されている。

- (33) これらの要素を考慮した上で、非伝統的保険と非保険業務の分類、および相互関連性の分類には、より高いウェイトが置かれ、一方で、他の3つの分類にはより低いウェイトが置かれる。様々なシナリオのレビューを受けて、非伝統的保険および非保険業務の分類のウェイトは45%、相互関連性の分類のウェイトは40%、ならびに、他の3つの分類のウェイトはそれぞれ5%となる。全ての5つの分類の中では、各指標に等しいウェイトが置かれる。

表2. 各分類および個別の指標に置かれるウェイト

分類	分類のウェイト	個別の指標	指標のウェイト [2011年のデータ用]
規模	5%	総資産	2.5%
		総収益	2.5%
グローバルな活動	5%	本店所在国外からの収益	2.5%
		国の数	2.5%
相互関連性	40%	内部での金融資産	5.7%
		内部での金融負債	5.7%
		再保険	5.7%
		デリバティブ	5.7%
		大きなエクスポージャー	5.7%
		回転率	5.7%
非伝統的保険および非保険業務	45%	レベル3資産	5.7%
		非保険契約者負債および非保険収益	6.4%
		デリバティブ取引	6.4%
		短期資金調達	6.4%
		金融保証	6.4%
変額保険商品に対する最低保証	6.4%		

		グループ内コミットメント	6.4%
		負債の流動性	6.4%
代替可能性	5%	具体的な事業種目の保険料	5%

(34) 各保険会社にとって、具体的な指標のスコアは、個別の保険会社の額を、標本における全ての保険会社を加算した合計額で割ることで計算される。1つの指標が下位の指標の組合せで構成される場合、下位の指標それぞれに対して同じ計算が行われ、結果は指標全体のスコアになるよう平均する。

(35) スコアは各分類内の指標のウェイトでウェイト付けされる。その後、ウェイト付けされた全てのスコアは加算される。例えば、標本の総資産規模の変数の合計が10%である保険会社にとって、総資産規模の指標は、10%のスコアを取得することになる。総資産規模に対する指標のウェイトがX%の場合、保険会社の合計スコアに $(10\%) \times (X\%)$ をもたらす。同様に、内部での金融資産合計に対する指標のウェイトがY%の場合、内部での金融資産が10%である保険会社は、10%のスコアを取得し、これは保険会社の合計スコアに $(10\%) \times (Y\%)$ をもたらす。全ての指標のスコアを合計することで、保険会社の合計スコアが得られる。可能性のある最大の合計スコア（すなわち、世界に1社しか保険会社がない場合）は、100%である。保険会社が指標のそれぞれにおいて10%を占める場合、その合計スコアは10%である。

(B) IFS 評価アプローチ

(36) IFS 評価アプローチは、「保険および金融安定化」に記載された概念により直接的に基づいている。本アプローチは事業セグメント固有のアプローチを採用する。

(37) 基本的に、IFS 評価アプローチは、保険会社の事業ポートフォリオを伝統的保険、準伝統的および非伝統的保険、ならびに非保険金融および非保険事業活動に区分する。評価アプローチは次に、保険会社の様々な事業活動でのシステム上の重要性に比例したリスクウェイトと結び付ける。リスクウェイトは、保険会社の事業ポートフォリオの区分に沿って分解された総資産に対する係数である。リスクウェイトは、保険におけるシステム上の重要性が、主に、非保険金融業務および非伝統的保険業務の運営に結び付くとする IAIS の見解を反映する。IFS 評価アプローチは、監督上の判断および検証プロセスの際に、追加的な情報源として用いられた。

(38) 指標ベースおよび IFS の評価のアプローチは、「保険および金融安定化」で示された概念と整合的である。全体的な方法の中の監督上の判断および検証のフェーズは、セグメントベースの IFS の評価アプローチと共に指標ベースの評価アプローチの結果を支援しながら、保険会社のシステム上の重要性についてより堅固な評価を作り出す。IFS 評価アプローチは、特定のリスクを伴う活動のカバーに失敗する可能性があるため、システム上の重要性の代用として指標を使用しないが、各事業セグメントを包括的にそのまま評価する。

(39) アプローチに関するさらなる情報は Annex1 に含まれる。

(C) 監督上の判断および検証の組入れ

(40) 指標ベースのアプローチは、G-SII 分析の範囲において、保険会社の相対的な重要性の最初の指摘を提供するために、および、IFS の評価のアプローチの結果から選定された追加の候補と共に、G-SII 候補リストを提供するためにも使用された。

(41) しかしながら、指標ベースの評価のみの使用は、結果として得られた候補が実際にシステム上重要かどうかに関して、決定を下すには十分ではない可能性があることが認識されている。さらに、双方の評価アプローチが異なる場合を含め、追加の説明情報または分析が要求される可能性もある。そのような追加の情報および分析は、例えば、以下のために、必要となる可能性がある：

- 指標に投入されたデータの理解を向上させ、および、指標の結果についてより正確な解釈をもたらす。
- 指標の形では容易に定量化できないような、例えば、主要なリストラまたはラン・オフの状態など、酌量すべき状況を明らかにする。
- 特定の種類の準伝統的または非伝統的保険業務に伴うリスクの範囲および性質、ならびにそのシステム上の関連性に関する情報を提供する。
- 保険会社の特定の商品/負債の流動性の側面および、そのような流動性の要請がグローバル経済にシステム上の影響を及ぼすかどうかの評価を提供する。
- 企業と他の金融取引先との相互関連性の性質および範囲についてのより深い理解を提供する。
- グループ内保証およびオフバランスシートリスクのシステミックリスクの影響について、より微妙な評価を提供する。

(42) これに基づき、IAIS は、各 G-SII 候補に関係するグループ全体の監督者の計算結果に関する見解を得るために、それらと協議を行った。IAIS は、当該評価に基づき、および関係するグループ全体の監督者と自身の議論でさらに情報を得たことにより、追

加の分析が必要となるかについて決定を行った。そのような場合、IAISは、公的な情報源および監督者から、選択されたG-SII候補に関する追加の情報を取得した。

(43) しかしながら、指標ベースの評価アプローチおよびIFS評価アプローチの結果に関わらず、IAISは、ある保険会社がG-SII候補のリストに追加されるべきであると提案する関係する監督者と議論を行うことについて留意することは重要である。

(44) この追加の分析段階は、効果的かつ透明性のある方法で実施される。このような追加のインプットが、指標ベースおよびIFSの評価アプローチで生じた結果を変更する限りにおいて、そのような判断は検証可能な議論により裏付けされるべきである。

(45) 特定の監督者が、評価方法での発見事項の結果に異議を唱える可能性がありえる。そのような場合、IAISはそのような議論の正当性を精査する。

(46) つまり、IAISは、監督上のインプットをプロセスに組み込む場合に、以下の一般原則を遵守する：

- 最初の定量的分析の結果に対する判断的な調整を行うためのハードルを高くすべきである。
- 当該プロセスが、保険会社の破綻または経営困難の可能性ではなく、保険会社の破綻がグローバルな金融システムに及ぼす影響に焦点を当てるべきである。
- 判断の積み重ねは、よく文書化され、かつ検証可能な情報となるべきである。

(47) 追加のインプットを組み込むプロセスは以下のとおりである：

- データ収集の範囲内の全ての保険会社に対するデータおよび監督上の記録（commentary）の収集。
- IFS評価アプローチに支援される、指標ベースのアプローチの体系的な適用。
- G-SIIの候補である保険会社について、監督者との議論、および要求に応じた、追加の分析。
- 可能性のあるG-SIIについての、IAISのFSBへの提言。
- IAISと協議し、関連する定性的および定量的指標を活用し、G-SIIsの集団を決定する、FSBおよび各国の当局。

(D) 指定プロセス

(48) 指標ベースの評価アプローチならびに監督上の判断および検証プロセスによる保険会社のランク付けを受けて、FSBおよび各国の当局は、IAISと協議の上で、G-SIIsの集団を決定した。

IV. 今後の手順

- (49) 評価方法は少なくとも3年毎に見直される可能性がある。あまりに頻繁に方法を変更することは、保険会社の事業計画を妨げることになろうが、全体の経済および保険市場における変動が評価方法に反映されるべきである。

Annex1－IFS 評価アプローチ

A-1 IFS 評価アプローチは、IAIS の「保険および金融安定化」の報告書の主要な概念を具体化するものである。これは、保険会社、保険中心のグループおよびコングロマリットの事業ポートフォリオを、伝統的保険、準伝統的および非伝統的保険業務ならびに、非保険金融および非保険事業活動にセグメント化することを基礎とするが、これは、これらの事業活動のシステム上の重要性が、（伝統的保険における）取るに足りないものから、（非保険金融事業、例えば、銀行における）かなり重要なものまで、広範囲に及ぶためである。

A-2 基本的に、IFS 評価アプローチは、保険会社の事業ポートフォリオを伝統的保険、準伝統的および非伝統的保険、ならびに非保険金融および非保険事業活動に区分する。評価アプローチは次に、保険会社の事業活動でのシステム上の重要性に比例したリスクウエイトと結び付ける。リスクウエイトは、保険グループの事業ポートフォリオの同じ区分に沿って分解された総資産に対する係数である。リスクウエイトは、保険におけるシステム上の重要性が、主に、非保険金融業務および非伝統的保険業務の運営に結び付くとする IAIS の見解を反映する。表 1 は、検討中のリスクウエイトを保険会社の伝統的、準伝統的および非伝統的保険業務に区分した保険会社の保険事業ポートフォリオと併せて一覧にしている。

表 1. 2011 年のデータに適用されたリスクウエイト

保険	伝統的	準伝統的	非伝統的
引受および投資支援/財務部門	2.5%/20%	12.5%/50%	22.5%/75%
非保険 金融業務	100%		
非保険 事業活動	0%		

A-3 IFS 評価アプローチは、伝統的な保険事業が決してシステム上の重要性を持たない可能性があるとしても、保険会社の他の活動で複合的な問題が起こるとも想定していない。そのため、伝統的な保険事業は低いけれどもゼロではないウエイトとしている。対極にある非保険金融事業は、100%のリスクウエイトとしているが、これは、非保険金融事業は決済システム、信用仲介および投資銀行/資本市場ならびに関連事業に直接関係しているという事実、また、その結果、銀行のように取扱われる必要があるという事

実を反映している。G-SIFI プロジェクトは、グローバルにシステム上重要な金融機関の特定に関係することを考えると、非金融事業活動のウエイトはゼロとなる。

A-4 ある事業セグメントの相対的な重要性を捕捉するための主要な測定基準は、前述のセグメントに沿って分解された総資産である。運営規模は、保険会社の事業ポートフォリオが伝統的な保険から非保険金融活動にシフトするにつれて、これまで以上に目的適合的となる。

A-5 継続ベースで保険会社の事業ポートフォリオを評価する際に、主要な測定基準のうちわずかなものが共通の尺度として機能する。保険グループおよびコングロマリットがグローバルなベースでお互いに関連して評価されるべき場合は、このような測定基準はさらに少なく、また、当該測定基準はできる限り利用可能で、信頼可能で、かつ安定したものとするべきである。IAIS は他の測定基準を調査した後で総資産を設定した。年次報告書のセグメント報告を通して部分的に入手可能であるが、総収益および内訳は、そのため、前年比ベースであまりにも変動が激しいことが分かり、および、相殺効果により損なわれ、また、収益は必ずしも対象となる事業の事実上の規模の反映とはならない可能性がある。

A-6 総資産は、保険会社のポートフォリオ内の全ての事業活動に対して決定されうるが、それでも、現在、年次報告書の精度は、概して、セグメント報告にとどまっている。非保険金融、ならびに準伝統的および非伝統的保険事業を全面的に反映するためには、総資産の内訳は、グループ内コミットメントを含むオフバランスシート・ポジションについて調整されなければならない。保険中心のグループおよびコングロマリットは、自身の総資産が事業ポートフォリオに渡ってどのように配分されるかを熟知している。そうでなければ、そもそも彼らは、伝統的な保険事業以外のいかなる事業運営にも携わるべきではない。「保険および金融安定化」の報告書および IFS 評価アプローチを考慮し、保険業界は、設定された要件に沿って自身の報告を前進させることに純粋な興味を持つべきである。

A-7 ある事業セグメントの資産に各々のリスクウエイトを乗じた各値を加算した額が、G-SII IFS のスコアと呼ばれる値になる。これは、以下のように公式で表すことができる。

G-SII-IFS スコア＝

1.	2.5%または 20%	×	資産（伝統的）	
2.	+	12.5%または 50%	×	資産（準伝統的）
3.	+	22.5%または 75%	×	資産（非伝統的）

4.	+	100.0%	×	資産（非保険金融）
5.	+	0.0%	×	資産（非保険事業）

A-8 IFS 評価アプローチでは、保険会社は自身の G-SII IFS のスコアの結果に従ってランク付けされる。

A-9 指標ベースおよび IFS の評価のアプローチは、「保険および金融安定化」で示された概念と整合的である。全体的な方法の中の監督上の判断および検証のフェーズは、セグメントベースの IFS の評価アプローチと共に指標ベースの評価アプローチの結果を支援しながら、保険会社のシステム上の重要性についてより堅固な評価を作り出すことを目指している。IFS 評価アプローチは、特定のリスクを伴う活動のカバーに失敗する可能性があるため、システム上の重要性の代用として指標を使用しないが、各事業セグメントを包括的にそのまま評価する。